### Type2-02(2022)



# 2系資源に適用する 漁獲管理規則・ABC算定について

2系資源漁獲管理規則を決定するMSE



漁業情報解析部 資源解析グループ 福井 眞 fukui\_shin87@fra.go.jp

## 2系漁獲管理規則におけるパラメータ決定の基準

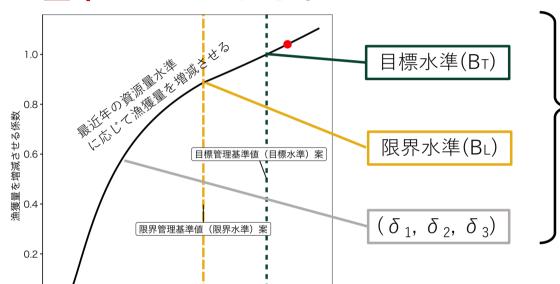
### 基本ルールのおさらい

0.0

25

50

資源量水準(%)



75

100

さまざまな生物パラメータ・個体群のトレンドを 仮定したシミュレーションのもとで…

- A) 資源を保護しつつ (=ABC>Bとなって絶滅するのを防ぐ), 漁獲量をできるだけ大きく
- B) 旧2系漁獲管理規則よりは良いパフォーマンス を示すパラメータを決定 (MSE\*\*)

複数の候補のうち、資源保護と漁獲の両方がバランス良く旧2系漁獲管理規則よりも改善=基本ルール( $B_T$ =0.8,  $B_L$ =0.56, ( $\delta_1$ ,  $\delta_2$ ,  $\delta_3$ )=(0.5,0.4,0.4))

A)B)を満たすようは漁獲管理規則は他にも存在→場合分けし、追加オプションとして提示

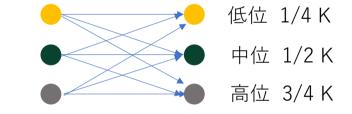
※MSEについてはオンデマンド研修 Info-01(2020)を参照

# 2系資源MSEの設定

・個体群動態の構造:プロダクションモデル型

$$B_{t+1} = \left\{ B_t + rB_t \left[ 1 - \left( \frac{B_t}{K} \right)^{\theta} \right] - C_t \right\} \exp \left( \varepsilon_t - \frac{1}{2} \sigma_R^2 \right)$$

- ・考慮した不確実性: 以下を組み合わせた108通りのOM=参照モデルセット
  - 個体群成長率 r (=0.3,0.5,0.7)
  - プロセス誤差 sr (=0.2, 0.4)
  - CPUEの観察誤差 si (=0.2, 0.4)
  - 過去の資源のトレンド(9タイプ)



- ・シミュレーション期間: 過去の資源動態20年、管理期間30年
- ・旧2系ルールもこのMSEに則ったパフォーマンス指標で良いスコアが得られているパラメータを標準とした→同じ土俵でより良いスコアが得られるHCRを探す
- コード: 資料にある23kei\_simulation\_mse.txtに関数を収納

詳細は市野川ら(2015) 管理目標の数値化による最適なABC算定規則の探索. 日本水産学会誌, 81, 206-218. を参照

## MSEに用いる関数の読み込みと設定

- Type2-02.Rをひらく
- 作業フォルダ下に 23kei\_simulation\_mse.txtをおく
- 23kei\_simulation\_mse.txtをRでsourceして関数読み込み
- MSEの設定
  - 個体群成長率 r (=0.3,0.5,0.7)
  - プロセス誤差 sr (=0.2, 0.4)
  - CPUEの観察誤差 si (=0.2, 0.4)
- MSEで試すdeltaの設定
- MSEで試すBT(Bref),PL,PBの設定
- do.scenario関数の実行

```
® Type2-01.R ⇒
            B Type2-02.R
          Source on Save
                                               Run
  1 # 2022 資源管理研修 Type2-02
    # MSEの諸関数を含んだソースファイルをsourceして読み
    source("scr/23kei_simulation_mse.txt")
  6 ≠ #----parameters for base case
  7 - #---- 9 scenario x delta x 3 r x 2 si x 2 sr x n =
 8 n <- 100
   r.tmp <- c(0.3, 0.5, 0.7)
    si.tmp < -c(0.2,0.4)
    sr.tmp <- c(0.2,0.4)
    k.tmp <- c(1)
 13 # set delta
    delta <- rbind(c(0.5,0.4,0.4))
    colnames(delta) <- c("high", "mid", "low")
 16 # 2系基本ルール
 17 res_base_rule <- do.scenario(delta,n=n,r.tmp=r.tmp
    =sr.tmp,k.tmp=k.tmp,label="base",man.option="ABC2"
    ,Bref=0.8,PL=0.7,PB=0.0)
 18 # スコアを出す
```

### パフォーマンスのスコアを算出

- do.scenarioの結果オブジェクトをscore.funcの関数の引き数に入れると、総合得点が出力(108シナリオのうち、1シナリオにつき1点).
- first2オプションをTにすると Bscore, Scsoreから計算する パフォーマンススコアが示され, score.ratioオプションをT にするとスコアを108で割った値が出力.

```
8 n <- 100
    r.tmp <- c(0.3, 0.5, 0.7)
 10 si.tmp <- c(0.2,0.4)
 11 sr.tmp <- c(0.2,0.4)
 12 k.tmp <- c(1)
 13 # set delta
 14 delta <- rbind(c(0.5,0.4,0.4))
 15 colnames(delta) <- c("high", "mid", "low")
 16 # 2系基本ルールMSEの実行 ----
 17 res_base_rule <- do.scenario(delta,n=n,r.tmp=r.tmp,si.tmp=
     .tmp=sr.tmp,k.tmp=k.tmp,label="base",man.option="ABC2",n.c
     .catch=5, Bref=0.8, PL=0.7, PB=0.0)
 18
 19 # スコア(Bscore, Cscore, AAVscore)を出す ----
     score_base_rule<-score.func(res=res_base_rule,first2 = F,s</pre>
      # スコア(Bscore, Cscore, AAVscore)を出す ⇒
       Terminal ×
                Background Jobs
R 4.1.2 ~/FishStockManageTraining/ 
 score_base_rule<-score.func(res=res_base_rule,first2 = F,score
> score_base_rule
              score Prob.B/Bmsy C/Cmsy AAV ABCimpact
0.5-0.4-0.4-1 0.824
                          0.861
                                   0.88
                                               82.188
```

### 様々な2系漁獲管理規則のパフォーマンス

#### 資源枯渇したケースが20%以下に抑えられるシナリオの割合

ABC算出 のための漁獲量

平均漁獲量が0.2MSYを上回るシナリオの割合

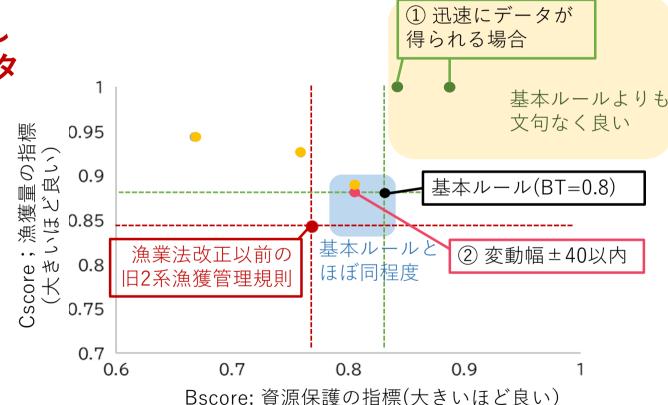
0 <sub>1</sub> -0 <sub>2</sub> -0 <sub>3</sub>		PL	РВ	平均年	<del></del>		AAV < 0.4	First two	ALL
係数	BT				Pr(B < 0.28 <sub>msy</sub> ) < 0.2	C > 0.2MSY			
従来のルール					Bscore	Cscore	<b>AAVscore</b>		
1.0-1.0-0.8-1.0		-	-	1年間	0.769	0.843	0.213	0.713	0.213
1.0-1.0-0.7-1.0		-	+	3年間	0.778	0.944	0.491	0.769	0.389
新ルール									
0.5-0.6-1.0	0.65	0.70	0.00	5年間	0.741	0.954	1.000	0.741	0.741
0.5-0.5-1.0	0.70	0.70	0.00	5年間	0.769	0.907	1.000	0.769	0.769
0.4-0.5-1.0	0.75	0.70	0.00	5年間	0.806	0.889	0.991	0.806	0.796
0.5-0.4-0.4	0.80	0.70	0.00	5年間	0.833	0.880	1.000	0.815	0.815
0.3-0.4-0.5	0.85	0.70	0.00	5年間	0.833	0.880	1.000	0.815	0.815
0.2-0.4-0.0	0.90	0.70	0.00	5年間	0.833	0.870	1.000	0.806	0.806
0.1-0.4-0.0	0.95	0.70	0.00	5年間	0.833	0.870	1.000	0.806	0.806

表の詳細は FRA-SA2020-ABCWG01-01 を参照 (※Pr(B<0.2B<sub>msy</sub>)は誤植で正しくはPr(B<0.5B<sub>msy</sub>)) 令和4年度に追加した漁獲管理規則のパフォーマンス値は FRA-SA2022-ABCWG02-11を参照

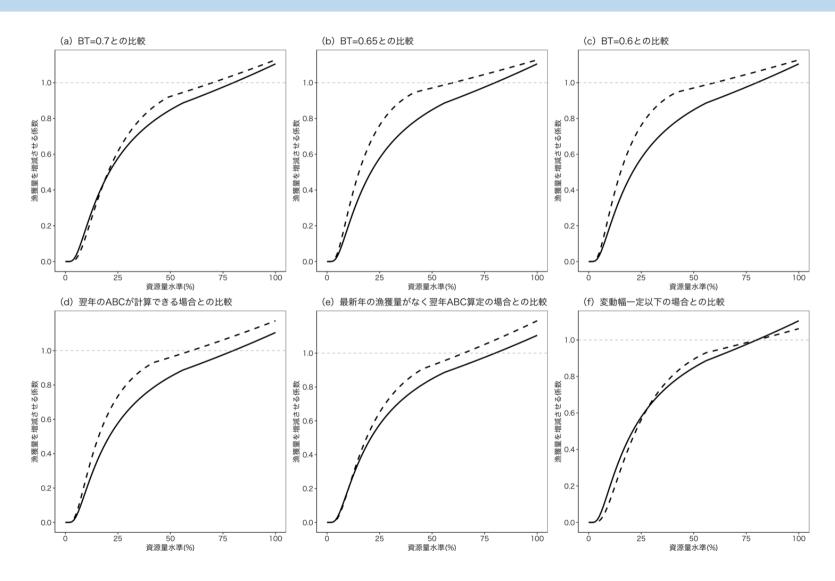
# 2系漁獲管理規則に複数オプションの可能性

以下の場合について検討し MSEの結果からパラメータ を選定( $P_L=0.7$ に固定)

- 迅速にデータが得られる場合 (2年遅れでなく1年遅れ) (BT=0.65 or 0.6)
- ② 漁獲量の変動幅が前年の<±40% (BT=0.8, 0.3-0.6-0.3)
- $\bigcirc$  BT=0.70 (0.4-0.7-1)
- ④ BT=0.65 (0.4-0.7-1)
- 5 BT=0.60 (0.3-0.7-1)



### オプションとして示された6通りの2系の漁獲管理規則;基本ルール(実線) との比較(AAV≒0.1のとき)

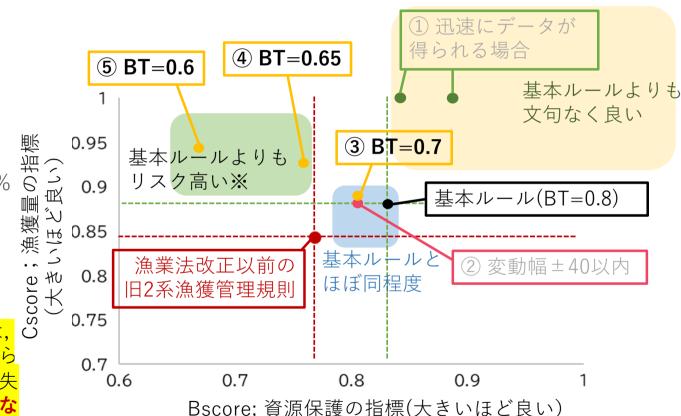


# 2系漁獲管理規則に複数オプションの可能性 2

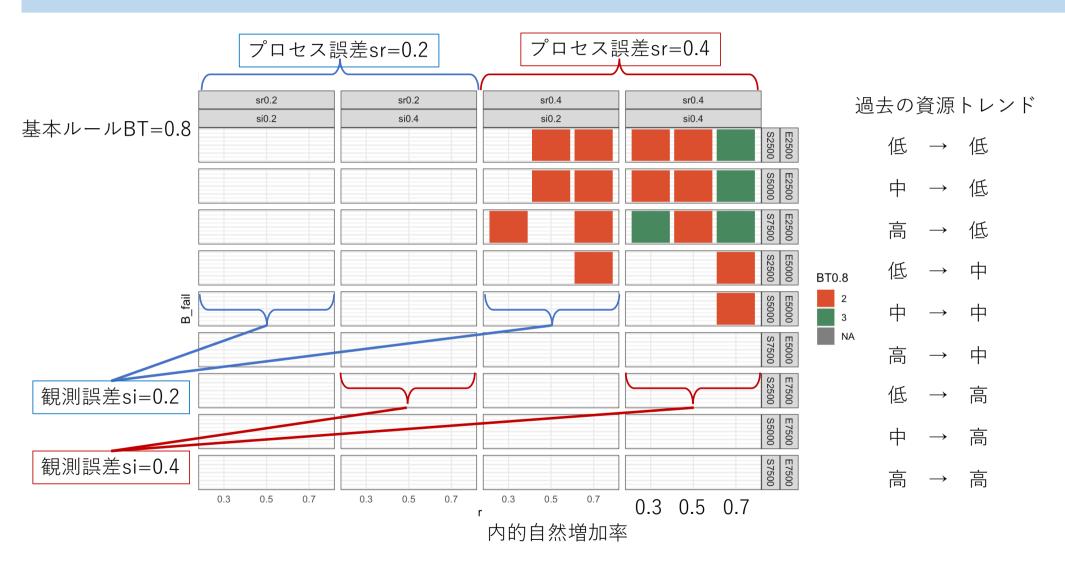
### 目標水準(BT=0.8)を 引き下げられる場合;

- ① 迅速にデータが得られる場合 (2年遅れでなく1年遅れ) (BT=0.65 or 0.6)
- ② 漁獲量の変動幅が前年の<±40% (BT=0.8, 0.3-0.6-0.3)
- 3 BT=0.70 (0.4-0.7-1)
- 4 BT=0.65 (0.4-0.7-1)
- **5** BT=0.60 (0.3-0.7-1)

※ 基本ルールよりもリスクが高い場合には、 資源量指標値のトレンド以外の情報から得られる根拠をもとに、当該資源において管理失 敗による**資源枯渇のリスク増大の懸念が少ない資源である(プロセス誤差小さい・資源が高**位)ことを示す



# 108通りのシナリオのうちどのシナリオで資源枯渇割合が20%を超えたか?(基本ルール)



# リスクが高いケースで資源枯渇割合が20%を超えたシナリオ;基本ルールとの比較

